

災害対策室が新潟県柏崎市長から感謝状を贈呈される

7月1日(火)、会田 洋新潟県柏崎市長から災害対策室へ感謝状が贈呈されました。これは、2007年7月16日に発生した新潟県中越沖地震において、柏崎市災害対策本部への同室の支援活動が評価され贈られたものです。

同室では、新潟県中越沖地震の発生翌日より柏崎市に入

り、専門的知見から災害対応支援を行ってきました。特に、被災者への「り災証明発行業務」について、公平かつ効率的にり災証明書を発行するための業務フローの提案およびマニュアル作成、り災証明発行場所のレイアウト設計などを行い、被災自治体の効果的な災害対応の実現に大きく貢献しました。

感謝状は、柏崎市に顕著な物的・人的支援を行った135の個人・団体・企業に対し贈られました。公益団体・企業、大手民間企業等とならんで本学災害対策室が表彰されたことは大変名誉なことです。

なお、2月4日(月)には泉田裕彦新潟県知事から、新潟県中越沖地震における災害対策室の支援に対して感謝状が贈呈されており(本誌178号参照)、今回の感謝状はそれに続く評価をいただいたことになります。今後も、災害対策室では、被災自治体等の災害対応支援を積極的行っていきます。



感謝状贈呈式にて

(上段左から3番目が会田柏崎市長、下段右端が木村玲欧災害対策室員)

防災教育「地震に負けない!」を安城市立志貴小学校において実施

7月11日(金)、愛知県安城市立志貴小学校において、防災教育「地震に負けない!」が実施されました。

これは、内閣府が支援する「防災教育チャレンジプラン」に採択された「土地の古老の三河地震被災体験談から学ぶ、地震・災害のしくみと防災のあり方」プランの一環として、災害対策室歴史災害教訓伝達プロジェクト(代表・

林 能成助教)が同市の防災課や教育委員会などと協力して進めているもので、本年度は市内の小学校3校で活動を展開しています。

同プランは、昭和20年に当地を襲った三河地震を題材に「防災を科学的に学ぶカリキュラムの標準化」をめざして取り組まれています。これまでのプロジェクトで収集してきた「被災者の体験談」をもとに、被災体験者の生の証言を聞くことで小学生の防災マインドを高める工夫がなされているのが特徴です。

当日は6年生を対象に、2・3時間目の2時間にわたって実施され、地震の基礎知識の授業に続き、被災者の証言が紹介されました。体験談を話したのは、同市和泉町で三河地震に遭遇した鈴木敏枝さん・杏名美代さんの姉妹で、木村玲欧助教の司会進行により生々しい被災体験の実態とその時の心理・行動などがわかりやすく紹介されました。その後、語られた体験談から「いのちをまもる」ためにどうすればよいのかを、ドリル形式の教材で復習しました。

同校では2学期に発展的内容を学習し、12月に被災体験談をまじえた2回目の活動を行って知識の定着を図る予定です。



防災ドリルに熱心に取り組む志貴小学生たち